

前書き

これは、2008年3月17日 21日に、長野県原村八ヶ岳自然文化園で行われた『 $R=T$ の最近の発展についての勉強会』の報告集の第2部です。執筆者の多大なご努力のおかげで、1冊目が2009年2月にでてから7か月という比較的短期間のうちに2冊目をだし、報告集を完成できたことを大変うれしく思います。このように、短かい時間に充実した報告集を作れたことは、日本の整数論若手研究者の実力の水準を示すものとして、心強く思っています。しめきりまでに間に合わない原稿があることはたいへん残念ですが、今後何かの機会に、形になることを期待します。くりかえしになりますが、この報告集の原稿を書かれた方、報告集を読まれる方が、これからの研究に生かして行かれることを切に期待します。

なお本研究は、京都大学21世紀COEプログラム「先端数学の国際拠点形成と次世代研究者育成」(拠点リーダー 柏原正樹)、日本学術振興会先端研究拠点事業「数論幾何・モチーフ理論・ガロア理論の新展開と、その社会的実用」(コーディネーター 松本眞)、文科省科学研究費 基盤研究(B)一般 課題番号 17340008 「数論的多様体の p 進的手法による研究」(代表 都築暢夫)、文科省科学研究費 基盤研究(A) 課題番号 19104001 「モジュライ空間と代数的サイクルをめぐる代数多様体の大域的研究」(代表 桂利行)からの援助を受けています。

2009年9月1日

報告集編集者を代表して、 齋藤 毅

